

# 昭和43年度 和歌山県文化賞

## わ なか きん すけ 和中 金助 (号 得春庵)

住 所：和歌山県和歌山市

出 身 地：和歌山県和歌山市

生 年：明治32年

### ◎業績及び経歴

大正8年大阪市立大阪高等商業学校を卒業後ただちに四十三銀行に入社した。その後、同銀行を退社して昭和6年紀陽銀行監査役に就任、同14年常任監査役となり現在にいたる。

この間、氏は先代から受け継いだ紀州に関する文献(図書目録は県立図書館に保管されている)をはじめ、茶器、陶器、書画骨とう類をもとに広く美術と郷土の文化研究に精励してきた。

大正12年から茶道を学び、その普及に力を入れ、昭和30年千家同門会県支部を創立して支部長となり今日までこの道の発展に尽くしてきた功績は大きい。さらに、大正8年以来紀州陶器の収集や研究にも力を入れ、機関紙「陶説」にその成果を発表するなど、文化研究のほか茶器や小道具の研究、鑑定にも卓見をもち、また古美術にも学識の深い幅広い文化人である。

茶道史の講演記録「紀州徳川家と表千家」や郷土の画家祇園南海の埋もれた文献を整理した「南海先生後集」はこの方面の研究資料として高く評価されている。

昭和41年、華岡青洲の講義録など貴重な文献53冊を和歌山県立医科大学に寄贈し、あるいは、収集した数多くの貴重な文献を専門の研究家に提供して研究を助成するなどかくれた功績もまことに大きい。